国際交流活動[*1]
—環太平洋医学教育シンポジウムなど—

細田　瑳一[*2]

新世紀を迎えたこの時期の医学教育関係の国際交流はますます盛んであった．1998年度はちょうど，日本医学教育学会創立30周年に当たりその記念事業の1つとして環太平洋医学教育シンポジウム（PaPaSME '99）が企画された．この会議は西太平洋医学教育連合（AMEWPR）の幹事を中心に世界医学教育連合（WFME）Hans Karle会長，T. Jefferson大学のJoseph S. Gonnella教授などをお招きして，Faculty Developmentをテーマに1999年2月東京で開かれ成功した．

1999年10月からWHOのNGOであるWFMEに，医科大学評価基準（Accreditation Standards）を考える作業グループが作られ，大学評価とコア・カリキュラムの国際標準を作って2003年3月のWHO・WFME共催のシンポジウムで審議し，採択される予定になっている．一方，1998年から大韓民国との間で医学教育の共同研究が学術振興会に申請され，毎年日本医学教育学会には韓国からYong Il Kim教授らの参加があるが，今のところ共同研究は実現していない．日本医学教育学会学術集会には毎年海外からの参加があり，2001年の大会（黒川大会長）ではSydney大学との双方向性テレビ討論が行われた．また，中国，タイなどとの間に協力関係ができているほか，各大学の個別の協力は広く行われて，毎年盛んになっている．本稿ではPaPaSME '99を中心にこれらの交流について報告する．

1. 環太平洋医学教育シンポジウム（Pan Pacific Symposium on Medical Education, PaPaSME '99）

日本医学教育学会創立30周年に当たって，Faculty Developmentを主題として国際シンポジウムを実施することが企画された．日本学術会議の50周年事業の1つとして公認され，堀原一会長，久道茂副会長（日本学術会員）の下に，文部省，厚生省，東京都からも組織委員を委嘱し，日本医学教育学会運営委員が組織委員となり各業務を分担した．日本医学教育学会名誉会長の日野原重明学長（聖路加看護大学）とJoseph S. Gonnella教授（T. Jefferson大学）を主賓にお願いした．海外からの招待者の中，世界医学教育連合Hans Karle会長（デンマーク）と西太平洋地域医学教育協会（AMEWPR）のRicardo R. Santi会長（De La Salle大，フィリピン）の2人は都合により演説原稿による参加となった．1999年2月3日から5日まで日本学術会議講堂と国際文化会館（東京）を会場として開催した．招待講演を依頼したLu Ann Wilkerson（UCLA），Joseph S. Gonnella（T. Jefferson U.），John D. Hamilton（U. of Newcastle），Kelly M. Skeff（Stanford U.），Raja C. Bandaranayake（Arabian Gulf U.），Yong Il Kim（Seoul National U.），Ren Huimin（Xi'an Medical U.），Susumu Tanaka（National Defense Med C.）らがそれぞれ，主演者として講演し，原稿のみ提出されたお2人の講演内容を含めて各座長の司会の下に熱心なpanel discussionおよび総合討論が行われた．韓国から29名のほか，中国，ベトナム，アメリカ，オーストラリアから一般参加を含めて42名の参加を得て，総数参加者136名で盛会であった．

各講演のテーマとプログラムは表1の通りで

---

*1 International Activities
キーワード：PaPaSME, Faculty Development

*2 Saichi Hosoda　財団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院

表1　環太平洋医学教育シンポジウム '99（Pan-Pacific Symposium on Medical Education（PaPaSME）'99）プログラム

2月3日(水)
打ち合わせ会　（演者と座長）　受付 16:00，開始 17:30～　司会：紀伊国献三（国際医療福祉大）
2月4日(木)
10:00～10:15　**開会の挨拶**　堀　原一　PaPaSME 会長・久道　茂　同副会長
10:20～11:40　**基調講演(1)**　座長：黒川　清（東海大）
LuAnn Wilkerson（UCLA）"Strategies for Improving Teaching Practices: A Comprehensive Approach to Faculty Development"
13:00～15:00　**パネル討議(1)**　座長：橋本信也（慈恵医大）
John D. Hamilton（Newcastle 大）"Faculty Development—An Imperative for Medical Education"
Kelly M. Skeff（Stanford 大）"The Improvement of Teaching: A Faculty Development Challenge"
Raja C. Bandaranayake（Arabian Gulf 大）"Faculty Development in Sri Lanka"
15:20～16:20　**特別講演**　座長：西園昌久（福岡大）
Hans Karle（Copenhagen 大）"International Standards in Medical Education and Faculty Development"
日野原重明（聖路加看護大），Joseph S. Gonnella（T. Jefferson 大）の講演
2月5日(金)
9:15～10:00　**基調講演(2)**　座長：尾島昭次（PaPaSME 学術委員長）
金　勇一（ソウル大）"Faculty Development Activity in Korea with Special Reference to NTTC"
10:00～12:00　**パネル討議(2)**　座長：神津忠彦（東京女子医大）
任　恵民（西安医大）"To Foster a Team of Qualified Teachers for the 21st Century"
Ricardo R. Santi（De La Salle 大）"Faculty Development—Present Status and Future Directions（DLSU and Philippine Perspectives)"
田中　勧（防衛医大）"医学医療指導者養成における医学教育ワークショップの役割と日本医学教育学会の関与"
13:00～16:30　**総合討議**　座長：鈴木淳一（帝京大）　堀　原一（PaPaSME 会長）
指名討論　Joseph S. Gonnella（T. Jefferson 大）
16:30～16:40　**閉会の挨拶**　細田瑳一　PaPaSME 事務局長

ある．

Faculty Development に関するリーダーの方々のそれぞれの講演内容については『医学教育』[1]を参照されたい．このシンポジウムの内容は，Faculty Development の最近の動向をよく伝えており教育的，斬新な良い参考資料となっている．理念・原理から具体的な実践プログラムまで，目標，方略，資源，技法など Faculty Development に関する広範囲の項目をとりあげ，地域や施設個別の教員養成センターでの経験・成果や，各国ごと，特にアメリカ，カナダ，オーストラリア，韓国，中国そして日本の現状，問題点の指摘までを含んだ報告があった．わが国については全国レベルから各大学までのワークショップの普及が伝えられた．Faculty Development は教員教育センター（各国の T.T.C）を中心に長年実践されてきていることである．今ではその社会的広がりは preparing teacher や student development の各レベルまで広範囲に及び，その機構構築，実現のための経済基礎，国際的統合や国際基準と同時に異文化圏の調整・協調と均衡の問題までがそれぞれの演者によって具体的に討議された．このシンポジウムで提起された主張がさらに今後のワークショップや運動を刺激し，次回のこのようなシンポジウムを望む声もあった．

最後に全員参加で Recommendation が提出された．①Faculty Development の定義②その必要性と背景③教育者の使命④管理者の責任⑤医学教育センターの各レベルでの確立⑥各国，各教育センターの Faculty Development に関する各レベルでの協調について述べている．

本シンポジウムは日本医学教育学会運営委員会の発案で日本学術会議と協力して企画され，文部省，厚生省はじめわが国の多くの医学教育関係者の御尽力，海外からの参加者の御協力によって実施され成功した．ここににこの会議を可能にして

いただいたのは科学研究費，日本心臓血圧研究振興会からの補助と共に上原記念科学財団，日米医学医療交流財団，野口医学研究所，ファイザーヘルスリサーチ振興財団，東薬協，大薬協の御寄付によることを記して感謝したい．

2. 医学教育機関評価の国際基準（WFMEの活動）

世界医学教育連盟（WFME）はWHOのNGOとして機能しているが，Hans Karle会長の下，本部をコペンハーゲンに移し，アフリカ地域（J. P. d. V. van Niekerk教授），アメリカ地域（Pulido博士），東地中海地域（Saad Hijazi教授），欧州地域（Nystrup教授），東南アジア地域（Abeykoon博士），西太平洋地域（Yong Il Kim教授）の6地域に分かれて活動している．H. Karle会長は各地域の医学校の医学教育の水準について再調整をするためWFMEの国際協力プログラムを作成し，医学校の国際的設置基準を作成するよう主張してきたが，1999年10月，WFMEにactive working groupを設け，コペンハーゲンで第1回のW/Sが行われ，Accreditation standardsを作成する作業を開始した．各地域の代表というよりは南アフリカCape TownのJ. P. d. V. van Niekerk教授，マレーシアの厚生大臣Abu Bakar Suleiman教授，ECFMG委員長Nancy Gary教授，同じくDavid P. Stevens教授（Vice President Medical School Standards and Assessment Association of American Medical Colleges），医学教育学のJanet Grant教授，Raja Bandaranayake教授などの医学教育の専門家・大学管理者と共にスウェーデンの研究者など若手を混ぜた構成で，5日間，朝から夜まで食事中を含めて討論し，素案を作成した．

第2回目はJ. P. d. V. van Niekerk会長によるCape townでのOttawa会議期間中に，第3回目はBarcelonaのWHO European Centreで2001年3月8～10日に行われ，基本的な原案とその適用法を成文化し，現在各国から意見を集め乍らHans Karle会長の下でbrush up中である．原案は齋藤宣彦教授によって翻訳されている．

医学校の国際基準案は，1）使命ならびに目標，2）教育プログラム，3）学生の評価，4）学生，5）教育スタッフ，6）教育資源，7）プログラム評価，8）管理と運用，9）継続的改革の9領域から構成されており，すべての項目数の必須基準と一層の水準向上の基準とが書かれており，水準向上の目標は向上の経過過程を評価する形式になっている．このことは必須基準を満たしているかどうかの評価判定のみでなく，どの大学でどの領域をとってもそれぞれのレベルに応じた向上になる努力目標・到達目標が立てられるよう工夫されている．

必須基準の大部分はわが国の医科大学，大学医学部にとって決して高いハードルではないが，大学の自律性，管理者の権限と責任が（例えばカリキュラム・モデルの採否，行動科学の教育や資源に応じた学生の導入，入学定員，教職員の定数の決め方，管理業務に関する学生代表の参加など確立されていないことなど），いくつかの点で問題がある．

この基準は別に検討されているコア・カリキュラムと共に2003年3月15～19日にWHOと共催で行われるコペンハーゲン会議で検討され実用的基準となることが予測される．わが国では卒前コア・カリキュラムが一応出来上ったところであり，国際標準と比較し改善し乍ら進めることが望ましい．

WFMEではこのほかに生涯教育に関する実務委員会を設定することになっており，わが国からは福井次矢教授（京都大）が参加している．

PaPaSME '99では地域差や異文化の問題の調整の必要性が強調されたが，同時にpreparing teacherやstudent developmentなど新しい方向も示されていたので今後，国内外でこれらの問題についても一層論議が深まり，向上に資することが望ましい．

3. 国際交流の記録

国際交流は日本医学教育学会総会でも盛んであり，アメリカのCDIM（東海大），ヨーロッパのAMEE（自治医大，名大），カナダから始まったOttawa会議（名大，東女大）など学会への日本からの参加も盛んで種々のレベルで行われてお

り，各大学ごと，学生相互，カリキュラム交換，姉妹校契約，姉妹都市関連，医学教育振興財団，日中医学協会，野口医学研究財団，日米医学医療交流財団を通じて多岐にわたっている．学生の留学，AMSA, JIMSA など学会出席と見学なども種々のレベルで行われており，年々ますます盛んである．

例えば，東海大学では Clerkship の立ち上げに当たって若手教官をアメリカ，カナダ，ヨーロッパの 19 校に派遣しており，アメリカ式 Clerkship の定着に資している．東京大学とハーバード大学，佐賀医大とハワイ大学，東女医大とウェルス大，聖マリアンナ医大とジョンズホプキンス大などそれぞれに契約に基づく交流が毎年行われている．

最近は学生の地域医学研究を中心にアジア地域に関しても交流が多くなっている．

文　献

1）PaPaSME ’99 Proceedings：医学教育 1999, **30**: 225–292